

## キャリア教育の定義

平成 11 年 12 月中央教育審議会答申

「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」 学校教育と職業生活との接続

望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力や態度を育てる教育。



平成 16 年キャリア教育の推進に関する総合的調査協力者会議報告書

～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～

児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度を育てる教育。端的には、勤労観、職業観を育てる教育。



平成 23 年 1 月 31 日中央教育審議会答申（平成 20 年諮問）

「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育。

### ○「キャリア」とは

人は、他者や社会とのかかわりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等、様々な役割を担いながら生きている。これらの役割は、生涯という時間的な流れの中で変化しつつ積み重なり、つながっていくものである。また、このような役割の中には、所属する集団や組織から与えられたものや日常生活の中で、特に意識せず習慣的に行っているものもあるが、人はこれらを含めた様々な役割の関係や価値を自ら判断し、取捨選択や創造を重ねながら取り組んでいる。

人は、このような自分の役割を果たして活動すること、つまり「働くこと」を通して、人や社会にかかわることになり、そのかかわり方の違いが「自分らしい生き方」となっていくものである。

このように、人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見出していく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところである。

### ○「キャリア発達」とは

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を「キャリア発達」という。

### ○「飯田型キャリア教育」でめざす子ども像

地育力を活用したふるさと学習を中核に据え、文科省の推奨する基礎的汎用的能力の他に、独自の視点として「ふるさとの良さに気づき自ら関わる力（ふるさと生活能力）」を入れ、「ふるさとを愛し、ふるさととともに生きている自分を見つめ、ふるさとの未来と私の夢を主体的に創造していける子ども」の育成をめざす。

## 飯田市のキャリア教育の取り組みの経過

年度	研究内容等	キャリア教育にかかわる組織
中学校での職場体験学習の定着期	18	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">キャリアスタートウィーク実行委員会</p> <p>(飯田西中の5日間の職場体験を支援する)</p> </div>
	19	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">教育委員会が市内9中学校の職場体験のコーディネートを始める。</p> </div> <p style="text-align: right;">発展 ↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">キャリア教育推進実行委員会</p> <p>(市内の9中学校の職場体験を支援する)</p> </div> <p style="text-align: right;">発展 ↓</p>
	20	
小中一貫の取組に向けたモデル実践・研究期	21	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">キャリア教育推進協議会</p> </div> <p style="text-align: right;">(キャリア教育全般に関わる啓発と事業の推進)</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;">内部 ↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">キャリア教育研究委員会</p> <p>(職場体験事前・事後学習のあり方の研究、小学校におけるキャリア教育の研究)</p> </div> </div> <p style="text-align: right;">内部 ↓</p>
	22	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">キャリア教育小中連携協議会</p> </div> <p>(キャリア教育における小中連携・一貫の研究)</p>
	23	
	24	<p>(キャリア教育における小中連携・一貫教育研究および実践)</p>
	25	
普及・実践期	25	<p>小中連携・一貫教育における実践 キャリア教育を重点取組とした中学校区</p>
	26	
	27	

# 「飯田型キャリア教育」とは

## 1 「<sup>ちいきりょく</sup>地育力」を活用した「飯田型キャリア教育」

飯田市の教育では、「飯田の資源を活かして、飯田の価値と独自性に自信と誇りを持つ人を育む力」を地育力と定義し、「地育力によるこころ豊かな人づくり」を目標にしています。

豊かな自然環境に囲まれた南信州の中心都市「飯田」には、旧村単位に存在する公民館を拠点にした地域に密着した学習活動をはじめ、「いいだ人形劇フェスタ」や「霜月祭り」に代表される独自の文化や、地域の基幹産業である農林業・商工業など、飯田特有の多種多様な地域資源が存在しています。また、それらの地域資源を支え、担い、造り出している人たちがいます。

「飯田型キャリア教育」では、この地域資源をふんだんに活用し、また地域の人たちとの出会いの場をつくり、子どもたちに「ふるさとへのすばらしさ」やこの地で「働くことのすばらしさ」、「生きることのすばらしさ」を伝えることを重視しています。

飯田型キャリア教育の実践の積み重ねを通じて、良好な職業観を有し、夢を持ち、それを実現しようとする意欲を抱き、ふるさと飯田を愛し、人とつながりながら地域づくりに貢献しようとする人材を育てていきたいと考えます。

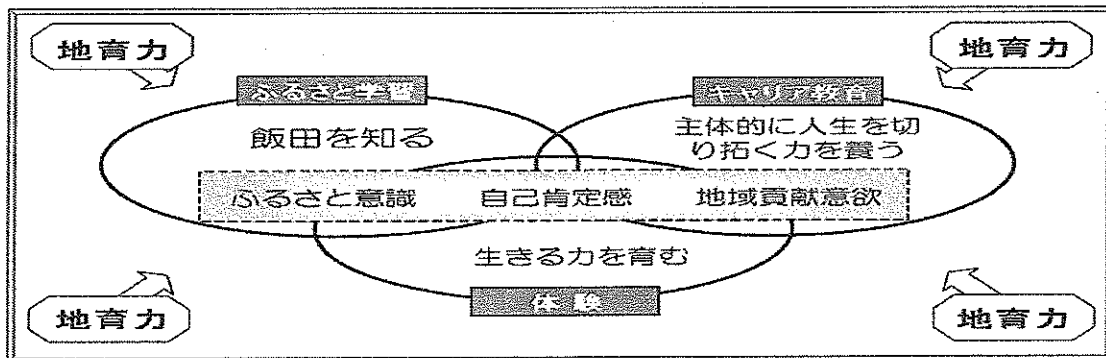
「飯田型キャリア教育」とは  
豊富な地域資源を活用し、地域の人たちとの出会いの場をつくり、学校、家庭、地域が連携しながら、次の時代を担う地域の子どもたちに、「ふるさとへのすばらしさ」や「働くことのすばらしさ」「生きることのすばらしさ」を伝え、夢や目標のもてる子どもを育む教育

「飯田型キャリア教育」でめざす子ども像  
ふるさとを愛し、ふるさととともに生きている自分を見つめ、  
ふるさとの未来と私の夢を主体的に創造していける子ども

## 2 「飯田型キャリア教育」の特色

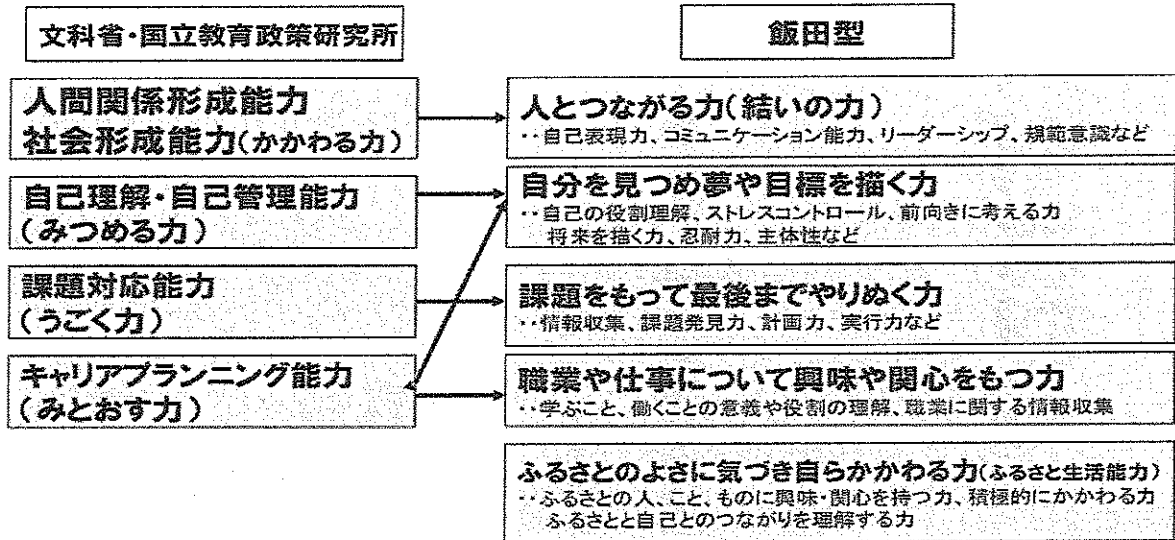
(1)地育力を活用した「ふるさと学習」（ふるさとへの思いを深める学習）の体験活動を重視して行うことをキャリア教育の中核に位置付ける。

- ①ふるさと学習においては、地域資源を活用し、特に人との出会いの場を工夫する。
- ②ふるさと学習においては、学んだことを地域に発信するなど、表現活動を大切にする。
- ③ふるさと学習においては、常に自分を見つめ、将来へ向けての自分のあり方を考えさせる。



(2) 「飯田型キャリア教育」では、次の「5つの力」を育むことを目的にしている。

**基礎的・汎用的能力** (社会的自立・職業的自立の基盤となる能力)

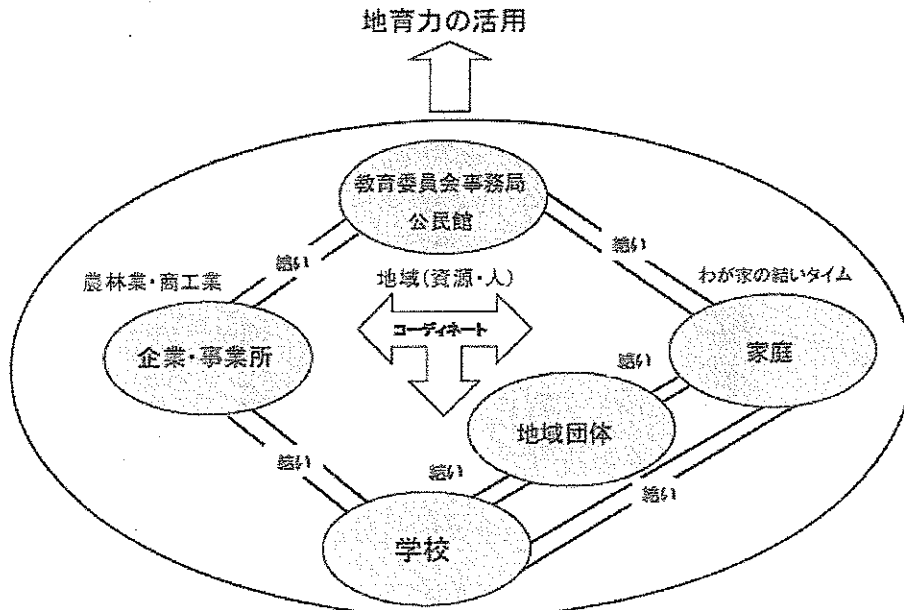


\*文部科学省ではキャリア教育で育むべき基礎的・汎用的能力として図左の4つの能力を規定。飯田型キャリア教育では独自の視点として「ふるさとのよさに気づき自らかかわる力」を入れている。

(3) 学校のみならず家庭や地域におけるキャリア教育も大切にします。

- ①家庭におけるキャリア教育として「わが家の結いタイム」(挨拶、会話、お手伝い、読書)を推進する。
- ②地域におけるキャリア教育として、地域行事への参加を呼びかけている。地域行事に参加して、多くの大人と接することで社会のルールやマナー等を学ぶことができ、またボランティア活動等に参加することで、社会に役立つ喜びを実感することができる。

(4) 学校、地域、企業・事業所、家庭、教育委員会が連携し、地域ぐるみで推進している。



## 飯田型キャリア教育の推進体制について

### 1 飯田市キャリア教育推進協議会（年2回開催予定）

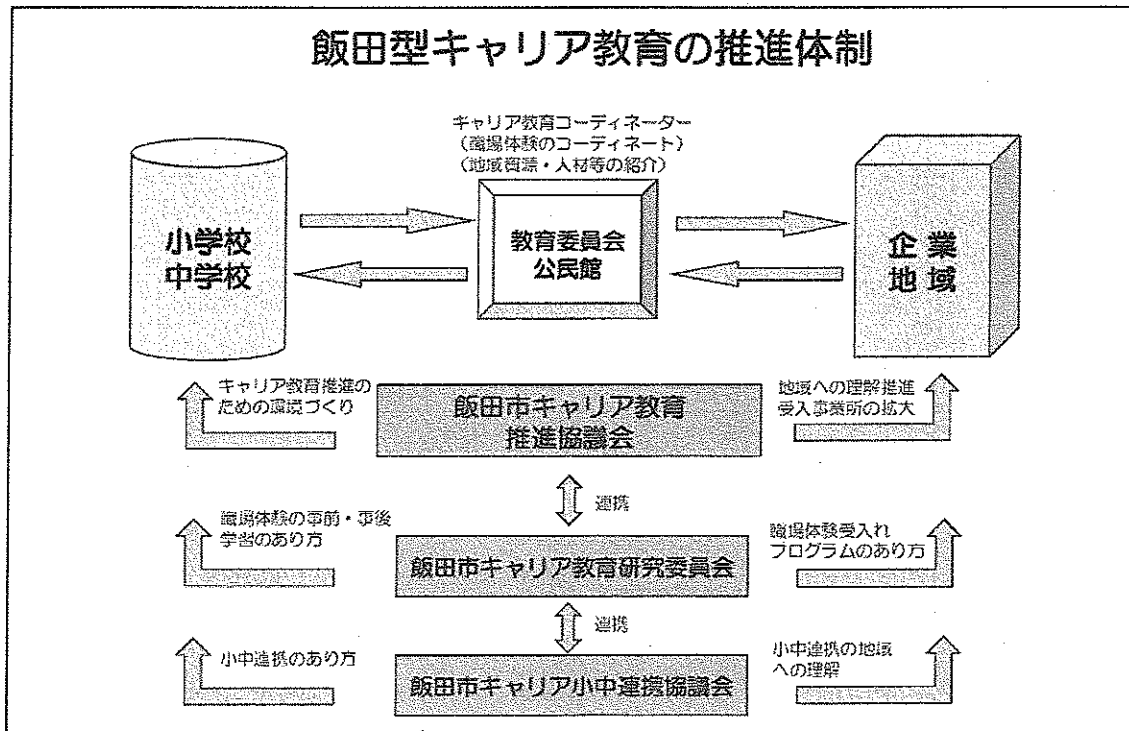
- (1) 次の内容について協議する
- ① キャリア教育の推進に関する基本的な方針
  - ② キャリア教育の推進に関する評価及び検証
- (2) 協議会へ校長会より2名参加していただく。

### 2 飯田市キャリア教育研究委員会（年5回開催予定）

- (1) 次のような研究・調査等をする。
- ① キャリア教育における小中高連携のあり方
  - ② 職場体験の事前、事後学習のあり方
  - ③ 職場体験の具体的なプログラム（3～5日間）のあり方
  - ④ 職場体験における学校と企業・事業所、家庭との連携のあり方
  - ⑤ 職場体験における学校、家庭、企業・事業所の成果の見極め
  - ⑥ 「飯田市キャリア教育推進フォーラム」（1月28日）の企画・運営
  - ⑦ キャリア教育にかかわる啓発活動
- (2) 研究委員会には、校長会から2名、教頭会から2名、各中学校のキャリア教育担当者、小学校キャリア教育担当者等に参加してもらう。

### 3 飯田市キャリア教育小中連携協議会（随時）

- (1) 小中学校における体系的・一貫的なキャリア教育に関する調査・研究。
- (2) ふるさと学習を中核にした年間指導計画の策定（既存計画見直し）に対する支援。
- (3) 協議会は、小中連携・一貫教育を、キャリア教育の視点から実践しようとしている中学校区と先進校である丸山小・飯田西中のキャリア教育担当者を中心に構成する。



## 平成28年度「飯田型キャリア教育」の取り組みについて

### 1 ねらい

「ふるさとを愛し、ふるさととともに生きている自分を見つめ、ふるさとの未来と私の夢を創造していける子ども」の育成

### 2 方針

- (1) 「地育力」を活用した「ふるさと学習」をキャリア教育の中核に据え、学校と地域が連携したキャリア教育を推進する。
- (2) 小中学校では、既存の取り組みや教育活動をキャリア教育の視点からとらえ直し、ふるさと学習を中核に据えた「キャリア教育年間指導計画」の作成を進める。
- (3) 発達段階に即して幼保・小・中・高が一貫した理念で、キャリア教育を推進する。飯田市で進めている小中連携・一貫教育においても、キャリア教育を充実させていく。

### 3 取り組みの経過

平成18年度	飯田西中が5日間の職場体験に取り組む。 第1回キャリア教育推進フォーラムを開催（主催 教委・飯田西中）
平成19年度	飯田西中以外の中学校が3日間以上の職場体験に取り組む。
平成20年度	（教育委員会・文科大臣表彰）
平成21年度	小学校においてキャリア教育の研究（研究指定校・丸山小）を始める。
平成22年度	丸山小・飯田西中において「ふるさと学習」を中核にした小中一貫のキャリア教育の研究に取り組む。（飯田西中・文科大臣表彰） 教科等におけるキャリア教育の研究を始める。 市内の中学校における職場体験日数が、平均5日以上となる。
平成24年度	キャリア教育における小・中・高の連携について研究を始める。 （丸山小・文科大臣表彰）（飯田市キャリア教育推進協議会が文科省・経産省主催「キャリア教育推進連携表彰」で、優秀賞を受賞）
平成26年度	「全国学力・学習状況調査」で、飯田西中の学力向上が評価される。
平成27年度	市内全小中学校でキャリア教育指導計画が策定される。

### 4 重点的な取り組み

- (1) 「地育力」を活用し、学校におけるキャリア教育を支援するための仕組み（プラットフォーム）を充実させる。

#### ①既存の組織について

組織名	回数	活動のねらい
飯田市キャリア教育推進協議会	年2回	推進のための諸機関、諸団体の連携
飯田市キャリア教育研究委員会	年5回	具体的な指導方法の検討

- (2) 職場体験学習の指導を充実させる。

- ①事前・事後学習の指導を一層充実させ、その振り返りを通して自分自身の成長や今後の課題に気づかせる。
- ②受入事業所向けに職場体験学習に関わるリーフレット・作文コンクール作品集を配布し、事業所に対して職場体験学習の意義や効果的な実施方法等について啓発していく。
- ③生徒たちが主体的に職場体験場所を選択できるようにするために、受入事業所の拡大を図る。

(3) 各学校における「キャリア教育年間指導計画」を充実させる。

①教職員のキャリア教育への理解を深め、指導力向上のための研修を充実させる。小、中学校のキャリア教育担当者を対象にした研修会を実施予定。(6月27日予定)

②キャリア教育の視点(5つの能力のフィルター)への理解を深め、各学校における既存の取り組みや教育活動を、キャリア教育の視点で見直し年間指導計画へ位置付けていく。

③「ふるさと学習」については、中学校区毎に内容を整理し体系化して、年間指導計画に位置付けていく。

(4) 家庭や地域との連携や協力を充実させる

①各学校にある「地域との連携組織」を活用し、キャリア教育への啓発を図るとともに、「ふるさと学習」をさらに充実させていく。

②キャリア教育の取り組みを通して、成長した子どものよさを授業参観日や学校だよりなどで、家庭や地域に発信していく。

## 5 継続している事業

(1) 教育委員会による職場体験学習のコーディネート(年間を通して)

①学校と受入事業所との連絡・調整に当たる。

②学校と連携して事業所訪問を積極的に行い、受入事業所の拡大に努める。

③職場体験学習の事前・事後学習の講師の派遣をする。

(2) 第11回飯田市キャリア教育推進フォーラムの実施(29年1月28日飯田市公民館予定)

○飯田型キャリア教育(学校、家庭、地域の取り組み)の取り組みの成果を発信する。

(3) 結いジュニアリーダー育成講座第8期生(中学2年生12名対象)の実施(6回)

①体験活動を通して「働くこと」の意味を考え合うとともに、生徒会等の情報交換を通して中学校間のつながりを作る。

②活動の成果は、キャリア教育推進フォーラムで発表する。

③各中学校でも、育成講座の活動について発表できるような機会も考えていく。

(4) 結いキャリアアップ体験講座(教職員対象)の実施(2回)

○地域での体験等を通して教職員のキャリアアップを図る。

(7月中心市街地・大平宿、12月遠山霜月祭り)

(5) 小学生・中学生・高等学校生徒を対象に「働く」ことをテーマにした第7回「結いのまち飯田」キャリア教育作文コンクールの実施。

①キャリア教育の啓発と飯田市のPRを兼ねて、全国的に作品を募集する。

②入賞作品集を作成し、各学校のキャリア教育における補助教材として活用する。

(6) 家庭におけるキャリア教育としての「わが家の結いタイム」の推進

①わが家の結いタイム推進協議会や飯田市PTA連合会と連携していく。

②第8回わが家の結いタイムポスターコンクール、第6回わが家の結いタイム三行詩コンクールなどを通して、わが家の結いタイムの啓発に努める。

(7) 「地育力通信」の発行や「地育力どっとネット」の運用(年間を通して)

○キャリア教育にかかわる情報を充実させ、発信していく。

# 西中生徒が実行委に

羽場地区 ふれあいウオークラリー



歩いて地元地域の魅力を探す参加者ら

実行委員会が主催する飯田市羽場地区のふれあいウオークラリー大会は6日に開かれ、親子など50人余りが参加して地区内を巡った。飯田西中学校の生徒は実行委員にも参加し、安全も楽しい大会運営に努めた。

ことしは桜地蔵や大場の明日を考える作文塚稲荷、元山白山神社など地域の歴史を学べるコースを設定。開会式で実行委員長の鈴木一美公民館長は「子どもから大人、高齢者まで多くの参加があつてうれしい。普段車に乗ってはいは気が付かないものを見つけて」と呼び掛けた。

参加者は家族や友だちなどでもチームをつくり、課題を解きながら地域を歩いて魅力を探り出した。

同大会は3年前、「羽

2016.5.29 南信州新聞

## 込められた思い共有へ

が発表して具体化した地域行事。ことしはまちづくり委員会青年・公民館部会などつくる実行委員会に同中学生役員など7人が加わった。

コースづくりで助言したり、大会当日は受けた。貴重な体験になっ

け付け係やチェックポイント係、探検係として活躍した生徒たち。3年の福澤美結さん(15)は「つぎはみんなが楽しめるかを考えるのが面白かった」と話した。

飯田市立丸山小学校は本年度、6年生(2人)の総合学習の授業を「講座制かきこし学習」と位置付け、地域の伝統文化などを学ぶ5つの講座を設け、遠征制で授業を進めている。

地域の人と関わりを持ちながら、地域の色や産業を学ぶことで、ふるまひの魅力を

「郷土料理」「獅子舞」「水引」「そば」「和菓子」の5講座が設けられ、児童は興味を抱いた講座を選択。いず

れも、地域内でそれぞれの分野にたずさわる「専門家」を招き、体験を中心とした学習を進めている。

### 5講座で伝統文化を学ぶ 丸山小かきこし学習



「人とながかる力」の醸成を目指す。

講座は4月から6月にかけて全4回開講。4月に開いた第1回で

「郷土料理」では、

このうち郷土料理に

参加した中田葉留君(13)と山田葉君(11)は「こたにゃくの白あ

飯田市丸山町の60〜80代の女性有志でつくり、農作物を育てながら昔ながらの料理の勉強や加工品づくりに取り組む「いかりぼたの会」のメンバーを講師に迎え、コンニャクの白あそびを田楽づくりに挑戦。また、「獅子舞」では東野大獅子保存会員から舞や囃子の指導を受けた。

この他、「そば」ではそば打ち、「和菓子」は落雁と黒糖饅頭作りを体験。「水引」は水引コンテスト出品に向けた作品づくりと、それぞれの講座で体験を通じて、地域の伝統文化について理解を深めた。

「かきこし」は、作るのも食べるのも初めてだったけど、伝統文化になさる人たちの思いや、願いに共感し、将来、地元で働く意義を見出していることができうれし」と声をそろえた。

海野博之教師は「楽しみに待てる。



手づくりの郷土料理に舌鼓

